

## 毎

**毎**は、**母**で、**𠂔** (𠂔 = ++ )と母との会意形声字です。母なる大地の恵みを受けて“草が生いしげる”という意味の字です。転じて物事の“重なる”または“重ねる”意味に使われます。音は母が変化してパイ。呉音はマイです。「毎日」は、“日を重ねる”という意味の言葉です。

**梅**は、毎と木の形声字で、“ばい”という名の木のことです。わが国の“うめ”のことですが、この“うめ”は、梅の呉音“マイ”をそのように受け取ったものです。「ン」を「ウン」と発音するように、mei が ume となったものです。

**誨**は、“重ねる”意味の**毎**と**言**との会意形声字で、音は毎が変化してカイ。言葉を重ねて、“ねんごろに教える”という意味の字です。教誨、誨告。

**晦**は、草の茂る意味の**毎**と**日**との会意形声字で、音は毎です。日が草に隠れて“くらい”という意味の字です。**晦冥**。転じて、“月の見えない暗夜”また“つごもり”。**晦日**(みそか)。

**海**は、晦冥の意味の**毎**と**水**との会意形声字です。“海は深くて暗い”ので「溟」とも言います。「南溟」は「南海」と同義です。

**悔**は、晦冥の意味の**毎**と**心**との会意形声字です。ああ残念なことをしたと、うらめしく思って、“心がくらい”という意味の字です。“くやむ”こと。**後悔**、**悔悟**。